

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマ b プラン） （平成 26 年度）の振り返り

生物多様性横浜行動計画（H23. 4 月策定）は、事業実施に関して定めた「具体的な取組と目標」が、平成 25 年度に計画期間の満了を迎えたため、改定を行いました（H27. 1 改定）。このたび改定計画に沿って平成 26 年度の実績を取りまとめました。今後とも将来像の実現に向け着実に取組を推進します。

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマ b プラン）は、2025 年（平成 37 年）の将来像を「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」とし、重点推進施策「5 つの重点アピール（※）」、「4 つの取組方針」及び、2017 年度（平成 29 年度）までの「具体的な取組目標」で構成されています。
（※ 1 b-プロモーション/2 ヨコハマ生き物探検/3 つながりの森/4 つながりの海/5 生き物にぎわう環境づくり）

将来像の実現に向けた 4 つの取組方針と具体的取組

方針 1 ～ 普及啓発 ～ 誰もが都市生活のなかで、自然や生き物に親しみ実践できる取組をすすめます

「環境教育出前講座」、「環境活動賞」、「横浜つながりの森」、「動物園等における環境教育」等を中心に、環境行動の実践に向けた普及啓発、プロモーションを展開しました。

平成 26 年度からの新たな取組である、「知ろう！伝えよう！生きものつながりキャンペーン」を始め、市民団体・企業等と連携しながらプロモーションを実施することができました。

平成 26 年 8 月に実施した「環境に関する市民意識調査」では、生物多様性という言葉が「よく知っている」「ある程度知っている」という人が 43.1% でした。一定の浸透が図られているものの、引き続き取組が必要です。

主な取組実績

※【目標】は 2017 年度（H29）末または 2014～2017（H26～29）年度の 4 か年の目標値を記載（各方針）

取組名	目標	主な実績
人づくりと場づくりの推進		
環境行動の実践に向けた広報・啓発	推進	知ろう！伝えよう！生きものつながりキャンペーン開催（5～6月）
体験フィールドの活性化～横浜の森プロモーション～	推進	・イベント紹介チラシの作成・配布（10月、1月） ・区民祭りで横浜つながりの森のPR ・公共交通機関と連携した広報等
生物多様性で YES！	参加者数 10,500 人/年	環境教育出前講座の実施 プログラム数 40/受講者数 8,180 人
活動団体への支援	推進	・環境保全活動団体へ助成金交付 5 団体 ・横浜環境活動賞の受賞 10 団体
動物園等での環境教育		
動物園等における環境教育	環境教育事業数 330 件/年	・動物園での環境教育事業 352 件 ・大学、教育機関の施設見学 13 件 ・繁殖センターでの施設見学等 9 件



図書館と連携した普及啓発
（生きものつながりキャンペーン）



環境教育出前講座



第 21 回横浜環境活動賞表彰式

方針 2 ～ 保全・再生・創造 ～ 地域の特性に応じた保全・再生・創造の取組をすすめます

横浜みどりアップ計画を中心とした「水田の保全」、「緑地保全制度」等の各種事業により、多くの樹林地・農地の保全・再生・創造を進めることができました。また、「国内外の希少生物の保全」を中心とした取組において、海外との連携を推進しました。生物多様性に配慮した川づくりについては、帷子川をモデルにアクションプラン（案）を策定しました。

緑地保全、生物多様性に配慮した公園整備、都心臨海部の緑化による賑わいづくりなど、横浜みどりアップ計画等を踏まえた保全・再生・創造の取組をさらに推進していく必要があります。

主な取組実績

取組名	目標	主な実績
保全を中心とした取組		
水田の保全	水田の保全承認 123ha	水田の保全承認 119.7ha（2014 年末）
緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	緑地保全制度による指定（400ha）	・緑地保全制度による指定の拡大 101.7ha ・緑地保全制度による買取り 18.2ha
森づくりガイドライン等を活用した森の育成	・維持管理推進 ・保全管理計画策定（樹林地 12 か所、公園 8 か所）	・森づくりガイドライン等を活用した維持管理 樹林地：109 か所、公園：11 か所 ・保全管理計画の策定 樹林地：3 か所、公園：5 か所
国際的な希少生物の保全の取組と国際貢献	推進	・インドネシア共和国と共同事業実施（カンムリシロムク保護事業） ・インドネシアへ専門家 2 名を派遣し技術指導実施 ・インドネシア側から研修員を視察受け入れ ・東南アジア動物園協会総会（台湾）講演（10 月） ・市民向けシンポジウムを横浜で開催（1 月）
横浜市及び国内に生息する希少動物の保全の取組	推進	・市内産カエル 2 種による飼育繁殖技術の研究を開始 ・スパールバルライチョウ 9 羽の繁殖に成功 ・ミゾゴイ（国内産希少種）雌 1 羽を導入
再生を中心とした取組		
生物多様性に配慮した公園整備	推進	公園緑地の整備に際し、現場条件に合わせ、鳥類や昆虫などに配慮した樹種を選定し、植栽を行った。
多様な生き物を育む場づくり（アユが遡上する川づくり）	帷子川モデルプランの策定	・基本方針（案）を策定 ・帷子川をモデルにアクションプラン（案）を策定 ・アユの遡上状況及び魚類等の生息状況調査の実施
創造を中心とした取組		
地域緑のまちづくり	46 地区で推進 ※2014～2018 年	6 地区と新たに協定を締結し、計 22 地区で緑化活動に助成等の支援を実施



保全された水田（青葉区）



インドネシアにおける繁殖等の技術支援



帷子川 魚道

方針3～しくみづくり～ 保全や評価などに取り組むしくみづくりをすすめます

帷子川流域において陸域生物調査を行い、河川生物相調査の冬期調査を実施しました。また、小学生による『こども「いきいき」生き物調査』を実施しました。横浜市役所の率先行動としては、区局統括本部ごとに環境行動目標を設定し、また、全職員向けに研修を行う等、意識啓発に取り組みました。

市民が自ら生き物を調べ、主体的な活動へとつながるよう、今後も生き物調査を継続していくと共に、企業や大学・研究機関等との連携を進めていく必要があります。

主な取組実績

取組名	目標	主な実績
生物調査データの継続的な蓄積と活用		
市民参加の生き物調査の推進	推進	小学生対象アンケート調査、こども「いきいき」生き物調査を実施。約 160 校、12,000 名超の児童が参加。
生物生息状況モニタリング調査	推進	・帷子川流域 3 カ所における陸域生物調査を実施 ・河川生物相調査の冬季調査を実施
市役所による生物多様性の取組の推進		
横浜市 ISO 環境マネジメントシステムへの反映	推進	・区局統括本部ごとに環境行動目標を策定し、職員が環境に配慮した行動を推進。また、共通目標として紙使用量の削減を設定 ・総合環境研修の実施による職員の意識啓発（受講対象者を全職員に拡大） ・内部監査により各区局の実施状況などを確認



こども「いきいき」生き物調査 2014 調査票



魚類調査の様子(金沢区 宮川)



ISO研修

12,000 人を超える小学生が市内全域生き物調査に参加してくれました！

～こども「いきいき」生き物調査 2014 調査結果～



カワセミの分布図

平成 26 年の夏休みに、市内の市立小学校 342 校の児童を対象に、家や学校の近くで見つけた生き物を報告してもらう市内全域調査を実施しました。158 校、12,349 名の児童が参加してくれました。

清流にすむ美しい鳥、カワセミが市の西部で多く確認されていることなど、生物多様性保全に資する貴重な情報を得ることができました。

〈2014 年の調査対象の生き物〉

- ・ツバメの巣
- ・つくし
- ・カワセミ
- ・ノコギリクワガタ
- ・アマガエル
- ・クマゼミ (の鳴き声)
- ・アライグマ
- ・タヌキ
- ・ハクビシン

参加してくれたみんな、ありがとう！
今後も地域の自然や生き物に関心をもってね！



方針4～まちづくりと経済活動～ 生物多様性に貢献するまちづくりや経済活動の支援をすすめます

みなとみらい 2050 プロジェクトでは、「世界を魅了する最もスマートな環境未来都市」の実現を目指し、アクションプランを策定しました。また海域において、市民団体や企業等と連携した研究・調査やイベントを開催しました。

農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルの構築を目指し、企業等からの地産地消の提案事業に対し支援しました。

生き物を身近に感じることができる、都心のまちなみと海・川を活かした豊かな環境のあるまちづくりを進めていく必要があります。また、企業との連携を推進し、生物多様性につながる環境分野の取組の促進につなげていく必要があります。

主な取組実績

取組名	目標	主な実績
生物多様性に貢献するまちづくりの推進		
みなとみらい 2050 プロジェクトの推進	推進	アクションプランの策定 (3 月)
都心臨海部の海づくり	推進	・山下公園前海域で生物による水質浄化能力の回復と向上の検討を、民間企業と連携して実施。 ・イベントに出展し、水質浄化等の事業を PR ・自動車道護岸沿いの水域において、アマモの植え付けを実施
金沢区野島海岸周辺の海づくり	推進	・野島海岸で市民団体と連携したイベントを開催し、海域の生物による水質浄化の PR 等を実施。 ・市民活動団体と協働した体験プログラムの実施 (参加者数：1,176 人) ・野島青少年研修センターでの自然体験プログラムの提供 (参加者数：6,252 人)
金沢区白帆地区の海づくり	推進	・海の公園、ベイサイドマリナー付近海域でのアマモの植付け等、自然学習イベントの実施
横浜ブルーカーボン事業の推進	推進	・海洋資源を活用した地球温暖化対策の調査・検討、カーボン・オフセットの社会実験の実施 ・事業の広報、環境啓発イベントの開催 ブルーカーボンシンポジウム (1 月)、シーサイドトライアスロン大会 (9 月) で排出された CO ₂ のオフセット実施者の認証及び証書授与 (1 月)、わかめ植え付けイベント (12 月)・収穫イベント (2 月)
企業による社会参加の拡大と生物多様性に貢献する経済活動の支援		
市民や企業等との連携 (地産地消の推進)	企業等との連携：50 件 ※2014～2018 年	企業等との連携 5 件



自動車道護岸沿いでのアマモ植え付け



わかめ収穫イベント



市内産農産物を利用した商品